

【評価の基準】 A:達成できている B:概ね達成できている C:あまり達成できていない D:全く達成できていない

		総合評価							
学校教育目標	質実勤勉な気質と自由闊達な精神を校風の基調とし、さらに豊かな教養と高い知性を養い健康な身体に鍛え、広い視野に立ち責任と協力を重んずる民主的かつ有為な社会の形成者を育成する。	今年度も生徒の授業を受ける姿勢は落ちついており、クラブ活動にも活気が見られる。地域の方々・同窓会・PTA等のご協力・ご支援もあり、生徒たちは充実した学校生活を送っている。各係が分野ごとに行った自己評価は下表の通りである。概ね所期の目標に到達していると考えられるが、それぞれに課題の残る項目もある。							
重点目標(中・長期的目標)	◇保護者・地域との連携を深め、信頼を得る学校づくりをおこなう。 ◇社会の形成者として必要な規範意識の涵養とマナーの向上及び協働意識の育成を図る。 ◇生徒一人ひとりの興味・関心、能力・特性に応じた適切な指導・支援を行うことで、豊かな人間性を養い、社会を担う人材を育てる。	昨年度より高大接続・高校教育に係わる改革について研究・検討をスタートし、今年度より授業時間の変更(65分授業×5時間から、55分授業×6時間へ)を行った。また、電子黒板(昨年度10月よりRESAS(地域経済分析システム)事業による整備)などのICTを活用した授業改善も徐々に進められ、来年度もより具体的に教育効果が高まる対応策を考え、工夫を重ねて行きたい。次年度は今年度の課題を重点に据えて、さらに教育力の向上をめざしたい。							
今年度の重点目標	◇いじめ・体罰のない学校づくりを推進する。特にスマホ、インターネットの利用にはその危険性を理解させ、犯罪の被害と問題行動につながることを未然に防止する。 ◇高大接続、高校教育に関わる改革について研究を深め、具体的な対応を進める。	成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策		
		・生徒の規範に対する知識と意識が低いと見られる行動が見られ、いじめ問題、インターネット利用に対する更なる啓発が必要である。		○			・単発的な講演会や注意喚起で終わらないよう、継続的な働きかけを進めたい。 ・また、共通理解と未然防止等について学芸員研修会や保護者向けの講演会などを計画したい。		
		・1年生より、高校での様々な活動の記録にクラッシュ(進路指導をサポートするクラウドサービス)を導入した。また、RESASを活用した探究学習では、教科「情報」と連携し、中間発表会(11月)や最終発表会(2月)を行った。		○			・授業において、電子黒板などのICT機器の利用度が高まっており、更なる内容充実を図りたい。生徒の思考力や主体性を重視した授業を展開できるよう、校内研修会や外部講師による講演などを実施していきたい。		
領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
教育課程	教育課程	高大接続改革のひとつとして導入予定の学力評価テスト等に向け、生徒・保護者および地域の期待・要望を勘案し、風越高校の特色を生かせる教育課程の検討を進め、提示していく。	次年度の文理分けや講座選択において、生徒の進路や興味・関心に応じたコース等の提示ができたか。	・学年と連携をとり、生徒や学年の意向を踏まえた講座編成ができた。また、生徒の進路を相談しつつ、講座選択をさせることができた。			○		・2学期は諸行事や修学旅行事前学習などへの対応のため、LHRを活用しての指導等がなかなか難しいが、生徒が1学期から進路に応じた講座選択を考えられるよう、学年と綿密に連携をとって、早めに動き出せるようにしたい。
			2020年導入予定の評価テストや能動的な学びに対応した教育課程の編成を行うことができたか。	・高大接続改革に伴い、入試方法や高校教育が大きく変わろうとしているが、その全体像や改革プラン等の詳細がまだはっきりしない。そのため、教育課程の改編は行わないが、例えば、RESASを活用した探究的な学びや、英語4技能のうちSWを意識した活動を行う等、新テストに向けた取り組みを始めている。			○		・高大接続改革研究委員会と連携をとって、高大接続と高校教育改革について研究を行いたい。また、進路指導係とも連携をとり、入試方法に関して情報収集を進め、検討したい。 ・2022年度実施の新教育課程の編成に向けての検討も進めたい。
	学習指導	学力の向上を図るために学習習慣の確立に努める。また、総合的な学習の時間(Fの学び)の在り方について検討していく。	家庭学習の充実を図ることができたか。	・学習記録や提出課題の確認などを通して家庭学習への取り組みを促しているが、取り組みへの意識の高低があり、今後も課題である。			○		・家庭学習の意義についての意識を高め、学習時間だけでなく内容が充実するよう繰り返し指導を行いたい。
			効果的な補習授業(土曜・平日)はできたか。	・継続して参加することで力をつけている生徒がいる一方で、後半の出席率が下がっていることが課題である。またGTECなど新たな取り組みも増え土曜日に余裕がなくなっている。				○	・補習授業を安易な欠席をしないよう、進路実現に向けての生徒の意識を高めていきたい。また補習の意義や方法については、次年度検討していきたい。
			高大接続改革の研究をふまえ、「Fの学び」について検討、計画をすることができたか。	・本校卒業生のOB・OG講話や地域学習など、進路係や学年により新しい取り組みがなされたが、今後更に検討が必要である。				○	・学年、教科、係との連携をとりながら実施をしていきたい。また総合的な学習の時間については検討を進めたい。
	進路指導	進路希望に合わせた情報の提供と指導を行う。	生徒の意識の高揚を図りながら進路希望に沿った指導ができたか。	・名古屋で開催されている進学イベントの夢ナビライブは参加者には好評であった。 ・進路室での3年生への対応は出来たが1・2年生へ向けての情報発信をより充実させていく必要がある。				○	・来年度の夢ナビは7月20日(土)であるが、参加を呼びかけていきたい。 ・進路希望、結果等の情報共有を適宜行っていきたい。
		職員間の進路情報、指導法の共有を図る。	e-Portfolio・共通テスト等へ向けて理解と取り組みができたか。	・今年度入試でのe-Portfolio(活動記録のデジタル蓄積化)利用はなかったが、クラッシュを活用していくことで、理解と準備には繋がっていくと思われる。				○	・昨年11月に実施された共通テストの試行を踏まえながら、来年度の計画に活かしたい。 ・クラッシュを活用していくことで、e-Portfolioに対応していきたい。
		キャリア教育の課題を具現化した進路指導を行う。	「Fの学び」等を通して、進路意識を高揚させることができたか。	・OG・OB講話、分野別講話、地域学習は大方好評であった。継続させていきたい。				○	・総合的な学習の時間を活用しながら、飯田市等地方公共団体や地元有志の方々との連携を深め、地域への認識を更に深めていきたい。
	生徒指導	社会規範・交通規則・校則を守る意識を高め、いじめのない自律的な学校生活を送れるよう支援・指導を行う。	いじめ等の問題行動を早期発見し対応できたか。	・年三回実施の「生活アンケート」や担任による面談や生活記録のチェックで生徒個々の状況把握はかなりできている。				○	・生活アンケートや生活記録などから得た情報に対して、関係職員で連携して迅速に対応できるようにしていく。
			SNSが持つ危険性を啓蒙できたか。社会規範、交通規則、校則を意識し学校生活を送れるよう指導できたか。	・SNSの持つ問題点が、日々変化する中で、指導する側の認識不足で対応しきれない面があり、指導が後手に回ってしまっている事があった。				○	・生徒が利用しているSNSやそれが持つ問題点を専門家の助言を得ながら確認したい。
地域・家庭との連携をはかり、安心・安全な環境を維持し向上させる。		地域の会合に出席したり、家庭との連絡を密にとることができたか。	・昨年来、多発した痴漢被害に対して地元自治会や関係団体の協力で防犯カメラの設置が実現したことは大きな成果である。				○	・会合だけでなく、定期的に実施している巡回指導などでも積極的に地域の人の声を聞き、対応していきたい。	

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策	
教育相談	教育相談態勢の充実を図る。	職員間で共通認識を持ち、適切な支援ができたか。		・共通認識を持って支援するために職員研修を実施しているが、出席者が減少している点は課題である。また、心配な生徒について職員間の情報交換が不十分なこともあった。		○			・職員研修の時期を見直す。また、職員間の情報交換を密にし、心配な生徒の対応を早めに行えるよう、学年会や教科担当者会、係会以外の方法も検討したい。	
		関係機関の活用、連携ができたか。		・スクールカウンセラー(SC)の活用は例年の倍以上であり、生徒・保護者の支援に役立った。一方、外部機関との情報共有方法の確認が必要である。		○			・担任と外部機関の担当者のみでなく、チームとして支援するために、内規に定められた支援体制を全職員に説明し、理解してもらいたい。	
	生徒会	自治活動としての支援をはかる。	委員会、クラブ、風越祭など充実して行えたか。		・委員会では、委員長を中心に責任をもって、仕事をやり遂げた。クラブ活動：それぞれ積極的に活動し、多くのクラブで県大会などの大会に出場した。風越祭：係を中心に、自主的に活動し、全体としても成功裏に終わった。		○			・更に生徒が自主的・主体的に活動に取り組めるよう、行事等に対して余裕をもって計画を立てさせ、見直しをもって活動していけるよう指導していきたい。
		地域に根ざした活動を目指す。	ボランティア活動などを中心に、地域に出て活動させることができたか。		・生徒会役員や一般生徒が自主的にボランティアに参加し、地域の活動に協力した。		○			・一般生徒への情報を提示により、ボランティア活動に参加する生徒を増やしていきたい。
		マナー・モラルの向上をはかる。	あいさつや身だしなみ、環境美化などの啓発を行えたか。		・生徒会役員の身だしなみなどは、向上してきている面はあるが、一般の生徒に啓発していくところまではいっていない。		○			・生徒が自ら現状を考え、向上策を検討していける活動を行ってほしい。
	保健	自己の健康課題を把握し、健康の保持増進に主体的に取り組む力を育てる。	疾病の早期発見に努め、早期治療につなげることができたか。また、健康上管理を必要とする生徒が学校生活をスムーズに送れるようサポートできたか。		・体調不良の生徒に対し、担任と連携して対応することができた。健康上管理を必要とする生徒も問題なく学校生活を送ることが出来たが、定期的に現状を確認しながらサポートした方が良かった。今年度は職員に対しエビベン(アドレナリン自己注射薬)の使い方の説明をおこなう事が出来なかった。		○			・健康上管理を必要とする生徒に対し、学期に1回状況を確認していく。職員に対しエビベン講習を行う等、職員全体で健康上配慮が必要な生徒をサポートしていく体制を整えたい。
			夏場の熱中症の予防等、季節に合わせた体調管理ができるよう、啓発活動を行うことができたか。		・暑さ指数の周知を図り、指針に基づいて運動制限を行うなど、熱中症予防の啓発に努めた。		○			・教室と校庭等の体育施設との温度差等に留意し、エアコン導入に伴う生徒の体調管理を行いたい。また、部活動中の熱中症を防ぐよう努めたい。
			年間を通して感染症の予防に努め、校内での感染症の蔓延を最小限にとどめる取り組みができたか。		・感染症による学級閉鎖等の措置を回避することはできたが、感染状況や予防方法を周知する等の取り組みをもっと積極的に行った方が良かった。		○			・インフルエンザの流行の状況や予防方法等を掲示物や放送等を利用してさらに積極的に周知していきたい。
	図書	図書館の利用促進をいっそう図るとともに、高大接続に向けた資料の拡充を目指す。	図書館の情報発信・資料の拡充とともに、資料閲覧、調査、貸出が円滑に行えたか。		・高校教育に関わる改革についての資料も準備し、貸出などを円滑に行うことができた。		○			・高大接続に向け、図書館利用の必要性も高まると考えられるため、改革に即した資料の更なる拡充と工夫に努めたい。
			視聴覚教育の充実を図る。	芸術鑑賞が生徒たちの情操を豊かにするものであったか。		・演目の「学校寄席」は、アンケートの結果から、生徒からの評判も非常に良く、有意義な公演であった。		○		
	人権平和	基本的人権と人間の尊厳を尊重し、差別・偏見・いじめを容認しない。平和や真理を希求する人格を育成し、人権尊重の実践を目指す。	人権学習や修学旅行体験を通じて、戦争と平和、差別や不当な人権侵害について学び、人権感覚を磨かせることができたか。		・今年度は、1960年代初頭のアメリカの人種差別と女性差別を題材とした映画を鑑賞した。歴史的な事柄として「聞いたことはあるが…」という生徒たちに、ドラマではあるが不当な差別、それと闘った人間の姿を見せることができた点は有意義であった。		○			・学年別に内容や教材を検討し、全校一斉で実施している現在の形態を変更できるよう検討する。
			いじめや命の尊さについて学び、人権感覚を磨き、育むことができたか。		・毎年担当者が変わり、単年度・単発の催しで終わってしまう。秋の実施で、4月以降問題になった事柄に対し、講師や教材を選ぶことはできるが、今の形でよいのか検討が必要である。		○			・他の部署(生徒指導係や教育相談係等)や学年などと連絡をとりながら、実施内容を考えていきたい。
学校運営	保護者や地域との連携・交流に努めるとともに、積極的に情報を発信し、より一層開かれた学校づくりを進める。	WEBページの更新や広報誌の「風越便り」の発行等を定期的に行い、学校情報を積極的に発信できたか。		・WEBページの更新は、最近の出来事といった生徒の教育活動の様子を、写真を中心に6回(1月現在)行い、例年の更新回数を上回った。 ・広報誌の「風越便り」の発行は、2月現在2回だけで、例年度を大きく下回ってしまった。			○		・年度当初に目標更新・発行数を決めるなど、年間計画を立てる。また、担当者を複数にし、定期的に担当者会を行ってほしい。	
		PTA活動や学校評議員会の意見を学校の教育活動に生かすことができたか。		・PTA活動はおおむね予定通り実施され、保護者同士の交流、保護者と学校の相互理解と連携が促進された。		○			・地区PTAそのものの見直しの声があるが、更に議論の積み重ねを行ってほしい。実施・不実施は新規定によって各地区ごとに決められる様になった。	